



# 時代の夜明けを たどる旅

## 幕末外交史跡をゆく

二百数十年の鎖国の時代を経て、嘉永7年（1854）3月3日の日米和親条約締結をもって日本は開国の時代を迎えました。安政5年（1858）、アメリカとの日米修好通商条約を皮切りに、オランダ・ロシア・イギリス・フランス・ポルトガル・プロイセン・スイス・ベルギー・イタリア・デンマークなど欧米諸国と条約を締結します（国名は調印順）。条約では自由貿易とともに公使などの外交使節を江戸に駐在することも取り決められました。この公使駐在をめぐるのは、すでに日本に滞在していたアメリカ総領事ハリスが幕府に強く要求し、交渉していました。一方、要求を受けた幕府では外交のエキスパートである水野忠徳（勘定奉行兼長崎奉行）と岩瀬忠震（目付）に意見を求め、協議の結果、認めることにしました。

問題は外国公館をどこに置くかでした。公館は主に現在の港区の寺院に設けられましたが、その理由としては、①江戸の南端に位置し、海に面して外国人たちの上陸地点に近いこと、②寺院が数多くあり、多人数からなる使節に必要な設備を整えるの

に適していること、③外国使節を接遇するのにふさわしい格を備えていること、④警備をする上で十分な空間が確保できることなどが挙げられます。とりわけ攘夷運動が盛んになってきたこの時期、幕府は使節団の警備に神経を使い、広い敷地を持ち、かつ外界と遮断された寺院を宿舎や公使館に選んだのです。しかし、外国人襲撃事件が横浜や江戸で相次いだため幕府はさらに警備を強化します。とくに万延元年（1860）12月5日に麻布中ノ橋付近で起きたアメリカ公使館通訳官ヒュースケン暗殺事件（→29、36ページ）は大きな外交問題に発展し、幕府は旗本・御家人から人員を抜擢して外交官個人の警固を強化し、公館全体の警備は大名に担当させました。それでも攘夷運動はますます激しさを増し、文久元年（1861）から翌2年（1862）にかけて起きた東禅寺事件（イギリス公使館襲撃事件、→37ページ）や品川御殿山イギリス公使館焼き討ち事件などによって、外国公使らは安全かつ生活に便利な横浜へ居を移し、港区の寺院は江戸に出府した時の滞在施設として利用されることになります。

# コースルート・所要時間

スタート

- 1 東京メトロ銀座線 虎ノ門駅  
徒歩 8分
- 2 赤羽接湯所跡(飯倉公園)  
徒歩 15分
- 3 麻布十番商店街  
徒歩 10分
- 4 ヒュースケン墓・伝言墓(大林寺)  
徒歩 10分
- 5 最初のフクロビノ便所宿跡(西懸寺)  
徒歩 8分
- 6 最初のイギリス公使館跡(真福寺)  
徒歩 10分
- 7 高輪接湯所跡(奥平寺前丸庭園)  
徒歩 15分
- 8 オランダ公館跡  
徒歩 5分
- 9 最初のフランス公使館跡(善徳寺)  
徒歩 10分
- 10 日英修好通商条約締結の地。  
オランダ公使館跡(西懸寺)。  
徒歩 10分
- 11 オランダなど便所宿跡(真福寺)  
徒歩 3分
- 12 愛宕神社  
徒歩 10分
- 13 増上寺  
徒歩 15分
- 14 赤羽接湯所跡(飯倉公園)  
徒歩 15分
- 15 麻布十番商店街  
徒歩 10分
- 16 最初のアメリカ公使館跡(善徳寺)  
徒歩 10分
- 17 高輪消防署二本掘出張所  
徒歩 8分
- 18 最初のイギリス公使館跡(真福寺)  
徒歩 15分
- 19 高輪接湯所跡(奥平寺前丸庭園)  
徒歩 15分
- 20 オランダ公館跡  
徒歩 5分
- 21 最初のフランス公使館跡(善徳寺)  
徒歩 10分
- 22 最初のフクロビノ便所宿跡(西懸寺)  
徒歩 8分
- 23 ヒュースケン墓・伝言墓(大林寺)  
徒歩 10分
- 24 麻布十番商店街  
徒歩 10分
- 25 赤羽接湯所跡(飯倉公園)  
徒歩 15分
- 26 麻布十番商店街  
徒歩 10分
- 27 最初のアメリカ公使館跡(善徳寺)  
徒歩 10分
- 28 高輪消防署二本掘出張所  
徒歩 8分
- 29 最初のイギリス公使館跡(真福寺)  
徒歩 10分
- 30 高輪接湯所跡(奥平寺前丸庭園)  
徒歩 15分
- 31 オランダ公館跡  
徒歩 5分
- 32 最初のフランス公使館跡(善徳寺)  
徒歩 10分
- 33 最初のフクロビノ便所宿跡(西懸寺)  
徒歩 8分

ゴール

●●●●● 徒歩

時代の夜明けを  
たどる旅

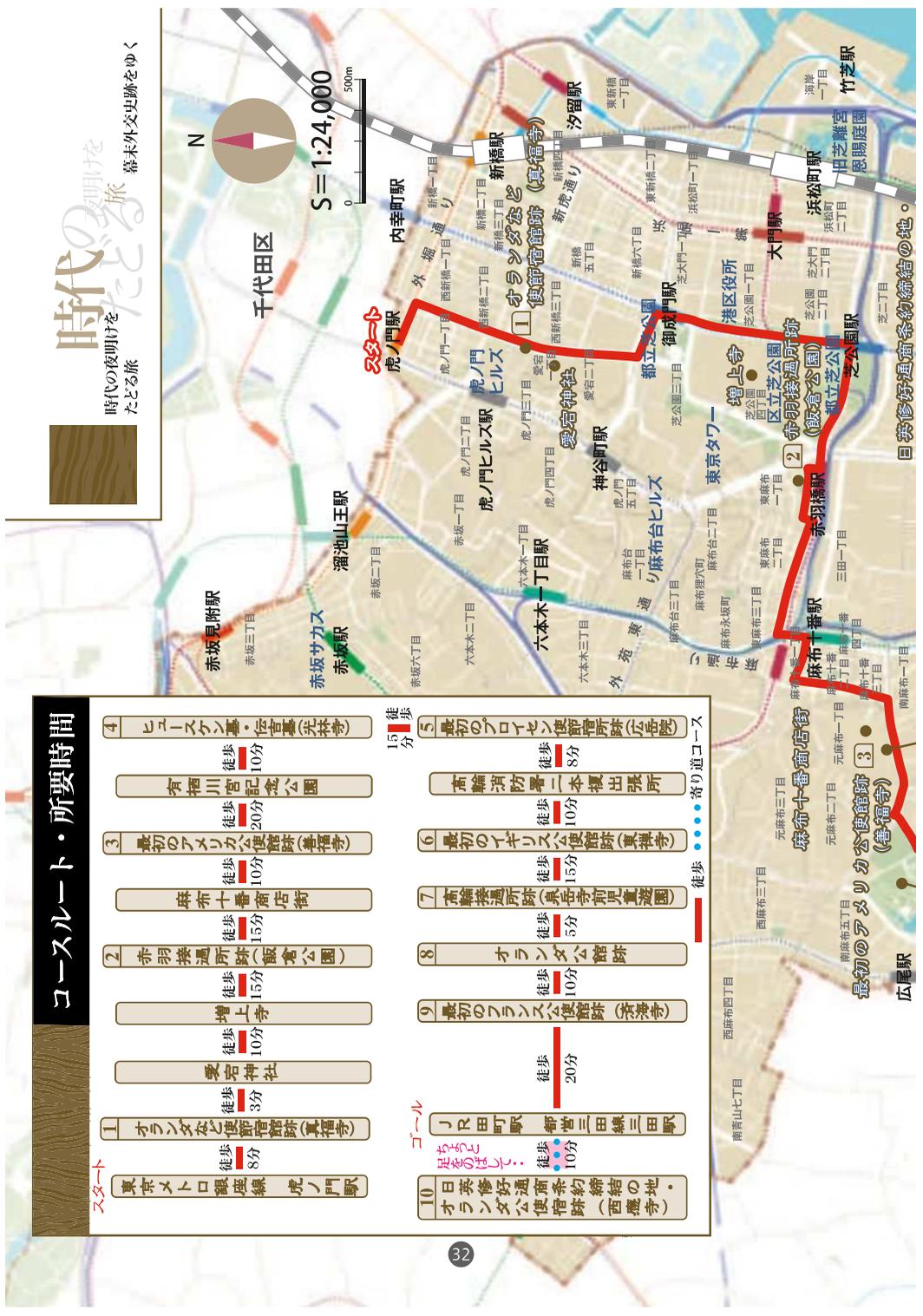
時代の夜明けを  
たどる旅

幕末外交史跡をゆく



千代田区

S=1:24,000





路線図

	都営浅草線
	都営三田線
	都営大江戸線
	JR線
	京浜急行線
	東京メトロ銀座線
	東京メトロ日比谷線
	東京メトロ千代田線
	東京メトロ南北線
	ゆりかもめ
	東京モノレール

品川区

レインボーブリッジ

TAKANAWA GATEWAY CITY

オランダ公使館跡 (西廻寺)

プロイセン公使館跡

行徳川宮記念公園

日の出駅

芝浦二丁目

芝浦一丁目

芝浦二丁目

芝浦三丁目

芝浦四丁目

芝浦五丁目

芝浦六丁目

芝浦七丁目

芝浦八丁目

芝浦九丁目

芝浦十丁目

芝浦十一丁目

芝浦十二丁目

芝浦十三丁目

芝浦十四丁目

芝浦十五丁目

芝浦十六丁目

芝浦十七丁目

芝浦十八丁目

芝浦十九丁目

芝浦二十丁目

芝浦二十一丁目

芝浦二十二丁目

芝浦二十三丁目

芝浦二十四丁目

芝浦二十五丁目

芝浦二十六丁目

芝浦二十七丁目

芝浦二十八丁目

芝浦二十九丁目

芝浦三十丁目

芝浦三十一丁目

芝浦三十二丁目

芝浦三十三丁目

芝浦三十四丁目

芝浦三十五丁目

芝浦三十六丁目

芝浦三十七丁目

芝浦三十八丁目

芝浦三十九丁目

芝浦四十丁目

芝浦四十一丁目

芝浦四十二丁目

芝浦四十三丁目

芝浦四十四丁目

芝浦四十五丁目

芝浦四十六丁目

芝浦四十七丁目

芝浦四十八丁目

芝浦四十九丁目

芝浦五十丁目

芝浦五十一丁目

芝浦五十二丁目

芝浦五十三丁目

芝浦五十四丁目

芝浦五十五丁目

芝浦五十六丁目

芝浦五十七丁目

芝浦五十八丁目

芝浦五十九丁目

芝浦六十丁目

芝浦六十一丁目

芝浦六十二丁目

芝浦六十三丁目

芝浦六十四丁目

芝浦六十五丁目

芝浦六十六丁目

芝浦六十七丁目

芝浦六十八丁目

芝浦六十九丁目

芝浦七十丁目

芝浦七十一丁目

芝浦七十二丁目

芝浦七十三丁目

芝浦七十四丁目

芝浦七十五丁目

芝浦七十六丁目

芝浦七十七丁目

芝浦七十八丁目

芝浦七十九丁目

芝浦八十丁目

芝浦八十一丁目

芝浦八十二丁目

芝浦八十三丁目

芝浦八十四丁目

芝浦八十五丁目

芝浦八十六丁目

芝浦八十七丁目

芝浦八十八丁目

芝浦八十九丁目

芝浦九十丁目

芝浦九十一丁目

芝浦九十二丁目

芝浦九十三丁目

芝浦九十四丁目

芝浦九十五丁目

芝浦九十六丁目

芝浦九十七丁目

芝浦九十八丁目

芝浦九十九丁目

芝浦百丁目

芝浦百一丁目

芝浦百二丁目

芝浦百三丁目

芝浦百四丁目

芝浦百五丁目

芝浦百六丁目

芝浦百七丁目

芝浦百八丁目

芝浦百九丁目

芝浦百十丁目

芝浦百十一丁目

芝浦百十二丁目

芝浦百十三丁目

芝浦百十四丁目

芝浦百十五丁目

芝浦百十六丁目

芝浦百十七丁目

芝浦百十八丁目

芝浦百十九丁目

芝浦百二十丁目

芝浦百二十一丁目

芝浦百二十二丁目

芝浦百二十三丁目

芝浦百二十四丁目

芝浦百二十五丁目

芝浦百二十六丁目

芝浦百二十七丁目

芝浦百二十八丁目

芝浦百二十九丁目

芝浦百三十丁目

芝浦百三十一丁目

芝浦百三十二丁目

芝浦百三十三丁目

芝浦百三十四丁目

芝浦百三十五丁目

芝浦百三十六丁目

芝浦百三十七丁目

芝浦百三十八丁目

芝浦百三十九丁目

芝浦百四十丁目

芝浦百四十一丁目

芝浦百四十二丁目

芝浦百四十三丁目

芝浦百四十四丁目

芝浦百四十五丁目

芝浦百四十六丁目

芝浦百四十七丁目

芝浦百四十八丁目

芝浦百四十九丁目

芝浦百五十丁目

芝浦百五十一丁目

芝浦百五十二丁目

芝浦百五十三丁目

芝浦百五十四丁目

芝浦百五十五丁目

芝浦百五十六丁目

芝浦百五十七丁目

芝浦百五十八丁目

芝浦百五十九丁目

芝浦百六十丁目

芝浦百六十一丁目

芝浦百六十二丁目

芝浦百六十三丁目

芝浦百六十四丁目

芝浦百六十五丁目

芝浦百六十六丁目

芝浦百六十七丁目

芝浦百六十八丁目

芝浦百六十九丁目

芝浦百七十丁目

芝浦百七十一丁目

芝浦百七十二丁目

芝浦百七十三丁目

芝浦百七十四丁目

芝浦百七十五丁目

芝浦百七十六丁目

芝浦百七十七丁目

芝浦百七十八丁目

芝浦百七十九丁目

芝浦百八十丁目

芝浦百八十一丁目

芝浦百八十二丁目

芝浦百八十三丁目

芝浦百八十四丁目

芝浦百八十五丁目

芝浦百八十六丁目

芝浦百八十七丁目

芝浦百八十八丁目

芝浦百八十九丁目

芝浦百九十丁目

芝浦百九十一丁目

芝浦百九十二丁目

芝浦百九十三丁目

芝浦百九十四丁目

芝浦百九十五丁目

芝浦百九十六丁目

芝浦百九十七丁目

芝浦百九十八丁目

芝浦百九十九丁目

芝浦百十丁目

芝浦百十一丁目

芝浦百十二丁目

芝浦百十三丁目

芝浦百十四丁目

芝浦百十五丁目

芝浦百十六丁目

芝浦百十七丁目

芝浦百十八丁目

芝浦百十九丁目

芝浦百二十丁目

芝浦百二十一丁目

芝浦百二十二丁目

芝浦百二十三丁目

芝浦百二十四丁目

芝浦百二十五丁目

芝浦百二十六丁目

芝浦百二十七丁目

芝浦百二十八丁目

芝浦百二十九丁目

芝浦百三十丁目

芝浦百三十一丁目

芝浦百三十二丁目

芝浦百三十三丁目

芝浦百三十四丁目

芝浦百三十五丁目

芝浦百三十六丁目

芝浦百三十七丁目

芝浦百三十八丁目

芝浦百三十九丁目

芝浦百四十丁目

芝浦百四十一丁目

芝浦百四十二丁目

芝浦百四十三丁目

芝浦百四十四丁目

芝浦百四十五丁目

芝浦百四十六丁目

芝浦百四十七丁目

芝浦百四十八丁目

芝浦百四十九丁目

芝浦百五十丁目

芝浦百五十一丁目

芝浦百五十二丁目

芝浦百五十三丁目

芝浦百五十四丁目

芝浦百五十五丁目

芝浦百五十六丁目

芝浦百五十七丁目

芝浦百五十八丁目

芝浦百五十九丁目

芝浦百六十丁目

芝浦百六十一丁目

芝浦百六十二丁目

芝浦百六十三丁目

芝浦百六十四丁目

芝浦百六十五丁目

芝浦百六十六丁目

芝浦百六十七丁目

芝浦百六十八丁目

芝浦百六十九丁目

芝浦百七十丁目

芝浦百七十一丁目

芝浦百七十二丁目

芝浦百七十三丁目

芝浦百七十四丁目

芝浦百七十五丁目

芝浦百七十六丁目

芝浦百七十七丁目

芝浦百七十八丁目

芝浦百七十九丁目

芝浦百八十丁目

芝浦百八十一丁目

芝浦百八十二丁目

芝浦百八十三丁目

芝浦百八十四丁目

芝浦百八十五丁目

芝浦百八十六丁目

芝浦百八十七丁目

芝浦百八十八丁目

芝浦百八十九丁目

芝浦百九十丁目

芝浦百九十一丁目

芝浦百九十二丁目

芝浦百九十三丁目

芝浦百九十四丁目

芝浦百九十五丁目

芝浦百九十六丁目

芝浦百九十七丁目

芝浦百九十八丁目

芝浦百九十九丁目

芝浦百十丁目

芝浦百十一丁目

芝浦百十二丁目

芝浦百十三丁目

芝浦百十四丁目

## 幕末外交史跡をゆく

### オランダなど使節宿館跡 (真福寺)

所 愛宕1-3-8

コース①

安政5年(1858)3月から6月まで、オランダ使節クルチウスが逗留したのが愛宕山下の真福寺(慶長10年〈1605〉建立)です。クルチウスは長崎出島の商館長でもありましたが、この時は領事官の肩書きを持っていましたため、幕府は市中の旅館は適当ではないと判断し、真福寺を宿所にあてました。真福寺はこの辺りでは江戸城にもっとも近い寺院で、門前の愛宕下通りを進めば500mほどで城門(新シ橋)につきあたります。クルチウスは日蘭修好通商条約が締結される前にここを去りましたが、その後も真福寺には修好通商条約を結ぶために訪れたロシア使節プチャーチンやフランス使節グローなどが滞在しました。



### 赤羽接遇所跡 (飯倉公園)

所 東麻布1-21-8

コース②

赤羽接遇所は安政6年(1859)3月に講武所付属訓練所の跡地2,856坪に建てられた外国人の宿泊所兼応接所です。黒門と高い板塀で囲まれ、内部には宿泊施設のほか、幕府役人の詰所や厩、警備の番所などが置かれていました。翌7年(1860)1月にロシア領事ゴスケビッチが滞在したほか、同年7月にはプロイセン使節オイレンブルクが滞留し、幕府と修好通商条約の締結を交渉しました。施設についてオイレンブルクは「家全体の設備はいささかテントのようであるが、快晴で暖かい天気のとときはともかく快適な住み心地である」と感想を述べています(『オイレンブルク日本遠征記』中井晶夫訳)。また、文久元年(1861)5月から10月まで再来日したシーボルトも滞在し、幕府顧問として活躍するなど、幕末外交の舞台となりました。



## 最初のアメリカ公使館跡 (善福寺)

所 元麻布1-6-21

コース③

安政3年(1856)7月、下田に来航したアメリカ総領事ハリスは修好通商条約の締結を幕府と交渉し、同5年(1858)6月19日に小柴沖(神奈川付近)に停泊中の米艦ポーハタン号上で日米修好通商条約の調印がおこなわれました。翌6年(1859)、駐日公使に昇格したハリスは、6月8日に通訳ヒュースケンをともない善福寺に入り、ここに公使館を開きました。当初は奥書院と客殿が公館に用いられていましたが、文久3年(1863)水戸藩士の放火により焼失したため、本堂の北側の庫裏くりを使用するようになったと思われます。境内には益田孝まさだが発起人となって昭和11年(1936)に建立したハリス記念碑があります。また、当時の善福寺の役僧やくそうが記した「亞墨利加ミニストル旅宿記」(区指定文化財、非公開)など幕末の外交史を知る上で貴重な資料も残されています。

【写真】



## プロイセン公使館跡

所 元麻布1-5 春桃院跡

慶応2年(1866)3月、プロイセン使節の宿所はそれまで利用していたこうがくいん広岳院(→36ページ)からここ春桃院(元和8年<1622>開創・当初は自適庵、後に現称)に移されました。駐日領事プラントは翌3年(1867)3月に代理公使に昇任し、幕府と交渉するためここを宿舍とし、プロイセン公使館となりました。公使館として使用されていた建物は本堂続きの127坪と山寄りの51坪の2棟であったといわれています。春桃院は昭和末期までこの地にありましたが、現在は南麻布に移転しています。

幕末期駐日外交使節一覧(一部)

アメリカ	ハリス	総領事・弁理公使
	ブリュイン	弁理公使
	デビュー	弁理公使
	ヴァン・ファルケンブルグ	弁理公使
イギリス	オールコック	総領事兼外交事務官・特命全権公使兼総領事
	パークス	特命全権公使兼総領事
フランス	ド・ベルクール	総領事・代理公使兼総領事・全権公使兼総領事
	ロッシュ	代理公使兼総領事
オランダ	デ・ウィット	総領事
	ホルスブルック*	総領事兼外交事務官
ロシア	ゴスケビッチ	領事・総領事
	ビューツォフ	領事

- ・紙幅の関係で、安政5年(1858)に修好通商条約(安政の五カ国条約)を締結した国々に限定しました。
- ・ホルスブルックは、スイス総領事、デンマーク政府代表を兼任しました。
- ・『開国150周年記念資料集 江戸の外国公使館』(港区立港郷土資料館、2005)より作成しました。

## 幕末外交史跡をゆく

### ヒュースケン墓・伝吉墓 (光林寺)

所 南麻布4-11-25 コース④

アメリカ総領事(のちに公使)ハリスにしたがって江戸に入った通訳官ヒュースケンの墓がここ光林寺(元和9年〈1623〉開創)にあります。ヒュースケンは万延元年(1860)12月5日の夜、赤羽接遇所あかぼねせつぐうしよから麻布善福寺あぜふぜんぶくじの公使館に帰る途中、待ち伏せていた攘夷派浪士に襲われ命を落としました(→29ページ)。葬儀は3日後に行われ、葬列にはハリス、オールコック(イギリス公使)、ド・ベルクール(フランス代理公使)、デ・ウィット(オランダ総領事)、オイレンブルク(プロイセン使節)など各国の公使・総領事・使節が参加しました。ヒュースケンはキリスト教徒であったため、土葬のできる御府外の光林寺に埋葬されました。また、同年1月7日に東禅寺とうぜんじ付近で殺害されたイギリス総領事雇いの通弁つうべん(通訳)伝吉の墓もここにります。 [医指]



### 最初のプロイセン使節 宿所跡(広岳院)

所 高輪1-24-6 コース⑤

万延元年(1860)12月14日、赤羽接遇所あかぼねせつぐうしよにおいて幕府とプロイセンとの間で日普修好通商条約が結ばれました。プロイセン使節オイレンブルクは同18日に赤羽接遇所を引き払い、一旦帰航します。その後、元治2年(1865)4月3日に幕府がプロイセンの宿所としたのがここ広岳院(文禄3年〈1594〉開創・当初は宗英寺、後に現称)です。領事プラントがここに入りましたが、翌2年(1861)2月にプロイセンの宿所は麻布の春桃院しゅんとういん(→35ページ)に移されたため、実際に使用したのは短い期間でした。



## 最初のイギリス公使館跡 (東禅寺)

所 高輪 3-16-16 コース 6

日英修好通商条約が締結された翌年の安政6年(1859)6月4日、イギリスの駐日総領事(のちに公使)オールコックが東禅寺(慶長15年<1610>開創。当初は嶺南庵、寛永13年<1636>後に現称)に入り、ここに総領事館(のちに公使館)を置きました。当時はすぐそばに海が面しており、通信や連絡が容易な場所でした。またオールコックは「江戸にある最大かつ最良の寺のひとつ」「これほど美しい草庵をえらべたことはさいわい」(『大君の都』山口光朔訳)など、とても東禅寺を気に入ったようでした。しかし、ここ東禅寺を舞台に血なまぐさい事件が相次いで起こります。

文久元年(1861)5月28日の夜、水戸藩を脱藩した攘夷派浪士10数名がここを襲撃しますが、警護についていた幕府の外国御用出役や諸藩の藩士が必死に防ぎ、襲撃者を撃退しました。この時、オールコックは危うく難を逃れましたが、書記官ローレンス・オリファントと長崎駐在領事ジョージ・モリソンが負傷しました。また、1年後の5月29日、警護についていた松本藩の藩士がイギリス人伍長を殺害し、歩哨1人を傷つけました。藩士は翌日藩邸で切腹しましたが、イギリス側は幕府

に償金を要求し、続いて起きた生麦事件とともに幕府を悩ませることになります(東禅寺事件)。事件後、イギリスは横浜に公使館を移し、東禅寺はその後公使館としてほとんど利用されなくなります。なお、元治2年(1865)から高輪接遇所(→38ページ)が実質的なイギリス公使館として利用されます。

現在、公使館の一部として使用された奥書院(現在は遷源亭と呼ばれています)が保存されており、公使宿館跡の碑が山門前にあります。

国図



広重 東京名勝図会 高輪 英吉利館



## 幕末外交史跡をゆく

### たかなわせつぐろしよ 高輪接遇所跡 (泉岳寺前児童遊園)

所 高輪2-15-37

コース7

接遇所とは外国人のための宿泊所兼応接所ですが、高輪接遇所は実質的なイギリス大使館です。イギリス公使は東禅寺事件（→37ページ）など度重なる襲撃により横浜に移っていましたが、元治2年（1865）2月に代理公使ウィンチェスターが泉岳寺を公使館とすることを幕府に求めます。さらに同年閏5月に着任した新公使パークスは泉岳寺中門前の敷地に公使館を建設するよう求めました。幕府はイギリス側の強い要求に押され、もと泉岳寺の土取り場2,659坪の地にイギリス公使館を建設し、攘夷派の焼き討ちを避けるため、「高輪接遇所」と名付けました。敷地内には平屋建て2棟の公使館が建てられ、1棟が公使パークスのために、1棟が公使館員用にあてられました。イギリス公使館通訳官のアーネスト・サトウも一時期ここに住んでいました。明治時代以降、新たな名所として錦絵にも描かれています。



### オランダ公館跡

所 高輪2-1-11 長応寺跡

コース8

オランダは江戸時代、徳川幕府の鎖国政策の中にあって西欧諸国で唯一日本と交易していた国です。オランダは修好通商条約締結後、外交使節を江戸に置かず、江戸時代以来の長崎出島を本拠としていましたが、総領事が江戸に出府した時に利用していたのがここ長応寺です。文久3年（1863）に総領事を引き継いだポルスブルックは出島から横浜に本拠を移しましたが、江戸の公館として長応寺を引き続き利用しました。ポルスブルックはスイス、ベルギー、デンマークなどの国々と幕府の条約締結を積極的に周旋したため、長応寺はこれらの諸国と日本との外交交渉の舞台にもなりました。

外国公館警衛大名一覧

藩名	藩主	警衛公館（宿寺）
越後与板	井伊直亮・直安	長応寺・善福寺
肥前島原	松平忠愛	善福寺
三河西尾	松平乗全	長応寺・東禅寺
越後福山	阿部正教	東禅寺
伊勢龜山	石川総祿	済海寺
摂津尼崎	松平忠榮	済海寺
出羽新庄	戸沢正実	赤羽接遇所
和泉岸和田	岡部長寛	東禅寺
上野高崎	松平輝声	善福寺
大和郡山	松平（柳沢）保申	東禅寺
上野沼田	土岐頼之	赤羽接遇所
美濃岩村	松平乗命	赤羽接遇所・東禅寺
摂津高槻	永井直耀・直矢	善福寺
美濃加納	永井尚典	善福寺
上野館林	秋元志朝	善福寺
越後高田	榑原政要	東禅寺
丹後田辺	牧野誠成	済海寺
信濃松本	松平（戸田）光則	済海寺・東禅寺
下野宇都宮	戸田忠恕	善福寺

## スイス使節宿所跡

所 三田4-8 正泉寺跡

文久3年(1863)12月29日、日瑞修好通商条約を結んだスイスは、翌元治元年(1864)、領事リンダウがフランス・オランダ公使館の近辺に滞在施設を求めました。この求めに応じて幕府が宿所に定めたのがここ正泉寺です。当時の境内図をみると、見張り所が一番から八番まで設けられ、厳重な警備体制を敷いていたことがうかがえます。ちなみにリンダウは作家でもあり、日本最古の英字新聞社『ジャパン・タイムズ』の共同設立者です。また、リンダウの後任として駐日総領事をつとめたブレンワルドは在日外資系企業として古い歴史を持つDKSHジャパン株式会社(旧日本シヤベルヘグナー)の創始者の1人です。

藩名	藩主	警衛公館(宿寺)
陸奥福島	板倉勝頭	善福寺
陸奥三春	秋田肥季	善福寺
遠江機須賀	西尾忠篤	善福寺
美濃大垣	戸田氏彬	東禅寺
駿河田中	本多正誦	濟海寺・東禅寺
越後村上	内藤信忠	東禅寺
丹波篠山	青山忠敬	濟海寺
信濃上田	松平忠礼	善福寺
近江水口	加藤明軌	善福寺
越前勝山	小笠原長守	善福寺
若狭小浜	酒井忠氏	濟海寺・善福寺
常陸笠間	牧野貞直	善福寺
越前丸岡	有馬道純	善福寺・長応寺
陸奥白河	阿部正外	善福寺
美濃郡上(八幡)	青山幸宣	善福寺

『開国150周年記念資料集 江戸の外国公使館』(港区立港郷土資料館、2005)より作成

## 最初のフランス公使館跡 (濟海寺)

所 三田4-16-23 コース9

安政5年(1858)9月3日に日仏修好通商条約を結んだフランスは、初代駐日総領事ベルクールが翌6年(1859)8月10日に品川に来航して濟海寺(元和7年〈1621〉開創)に入り、ここに公使館を置きました。文久3年(1863)に新公使ロッシが着任すると、活発な外交活動を進めました。当時のヨーロッパの2大強国はイギリスとフランスでしたが、イギリスが薩摩藩など西国雄藩を支援するのに対抗し、フランスは積極的に幕府を支援し、幕府の軍制改革などに協力しました。明治3年(1870)に引き払うまで公使館として使われました。幕末から明治にかけての外交史を理解する上で、欠くことのできない史跡といえるでしょう。

〔地図〕



## 幕末外交史跡をゆく

### 日英修好通商条約締結 の地・オランダ公使宿跡 (西應寺)

所 芝2-25-6

コース10

安政5年(1858)7月8日、修好通商条約を結ぶためイギリス使節エルギン卿の一行が江戸に上陸し、滞在したのがここ西應寺(応安元年(1368)開創)です。エルギンは日米修好通商条約をモデルとすることを決めていたため、幕府との交渉は順調に進み、10日後の7月18日に西應寺で条約が締結されました。イギリス使節の一行には中国人やペットまでおり、寝る時はベッドに蚊帳をつるしたそうです。エルギンは滞在中の様子について、「この快い隠れ家は一方の側が寺院で、他のすべての側は高く築いた堤で外界から隔離されていた」と記し、同じく随員のオリファントは「われわれの部屋は中庭の一面になっていた。そこは芝生の庭園で、中央に蓮に覆われた池があり、そこにひなびた橋で渡る小島があった。とても大きな金魚が幅の広い蓮の葉の下に物憂げに浮かんでいた」と述べています(いずれも『エルギン卿遣日使節録』岡田章雄訳)。

また、翌6年(1859)9月1日からオランダ公使宿館がここに置かれました。書院および庫裏の2階などが使われ、初代公使クルチウスらが駐在しました。しかし、慶応3年(1867)12月25日の薩摩藩邸焼き討ち事件(→30ページ)の時、隣接していた西應寺も砲火によって全焼し、オランダ公館日誌などの貴重な資料が失われてしまいました。

【参考】





# 時代の夜明けを たどる旅

## 近代史跡

明治時代の幕開けとともに、日本は殖産興業の道を歩み、慌ただしい近代化の波が押し寄せます。港区には日本の近代化を語る上で重要な史跡が数多くあります。これらは大きく、①産業・交通・通信、②医療・教育、③地方行政に分けられます。①産業・交通・通信の分野では、まず国指定史跡となっている旧新橋停車場跡があります（→51ページ）。明治5年（1872）に日本で初めて営業鉄道がスタートした記念すべき史跡です。通信の分野では東京放送局の仮局舎と本局社が設けられ、日本におけるラジオ放送が開始されました（→45、48ページ）。このほか、横浜・兵庫に続く日本3番目のガス事業が創業された地（→44ページ）や、全国紙『讀賣新聞』発祥の地（→52ページ）などがあります。

次に、②医療・教育の分野は近代史跡の中でも最も多い分野です。看護婦教育発祥の地（→49ページ）、歯科医学教育発祥の地跡（→46ページ）、東京大学医科学研究所（→46ページ）、北里研究所病院

（→47ページ）など、日本の近代医療の発展を支えた研究機関や教育機関があり、日本近代医療史を語る上で重要な地域であるといえましょう。教育機関としては、日本近代初等教育の幕開けとなる小学第一校が設けられた地があります（→49ページ）。また、日本の私立大学の代表校である慶應義塾大学（→50、60ページ）や、日本最古のミッションスクールである明治学院大学（→61ページ）、海軍将校の養成学校という特殊な役割を果たした攻玉社跡（→50ページ）などがあります。

③地方行政の分野では、明治11年（1878）7月22日に発布された<sup>ぐんくちようそん</sup>郡区町村編成法により設置された<sup>へんせいほう</sup>麻布区、芝区、赤坂区の各区役所跡が史跡に定められています（→47、50、52ページ）。

このほか、南極探検隊記念碑（→44ページ）や、日本経緯度原点（→48ページ）など日本の近代化に重要な役割を果たした史跡があります。





## 近代史跡

### ガス創業の地

所 海岸1-5-20

東京ガス

コース①

東京におけるガス事業は、明治6年（1873）11月、東京会議所が東京府にガス燈建設を出願し、12月12日に許可され本格的に開始されました。翌日、工業用地として芝浜崎町3番地（現海岸1-5）の11,300㎡の広大な土地が貸与されました。翌7年（1874）1月、フランス人技師プレグランを招き工場とガス燈の建設がはじまり、金杉橋から芝・銀座を経て京橋まで85本のガス燈が建てられました。12月15日に試燈火が行われた後、18日に新橋-京橋間のガス燈が燈火され、横浜・兵庫に続く3番目のガス事業がはじまったのです。ガス燈1本の料金は1ヶ月3円55銭5厘（米約2俵分）とかなり高額でした。

区留



### 南極探検隊記念碑

所 海岸3-14-34

コース②

明治43年（1910）11月29日、日本最初の南極探検隊として陸軍中尉白瀬巖しらせのぶ（1861～1946）らに乗せた木造船開南丸（204t）が芝浦埠頭を出航しました。途中、ニュージーランドのウェリントンやオーストラリアのシドニーに寄港して物資を積み込み、明治45年（1912）1月16日、ついに南極大陸に上陸しました。ちょうどその翌日にイギリスのロバート・スコットが南極点に到達したため、白瀬らは南極点到達を断念し、学術調査と領土の確保を目指しました。しかし、滞在に困難を極めたため、28日に南緯80度5分・西経156度37分の地点一帯を「大和雪原」と命名して、日章旗を掲げて日本領を宣言しました。これを記念して昭和11年（1936）12月20日にここに碑が建てられました。なお、ペンギン像は日本を代表する彫塑家朝倉文夫の作です。



## 放送記念碑

所 芝浦3-3 JR田町駅芝浦口ロータリー脇  
コース③

日本におけるラジオの本放送は大正14年（1925）7月22日に愛宕山の東京放送局から発信されました（→48ページ）、前年の大正13年（1924）11月29日に東京放送局の仮局舎が当時東京高等工芸学校のあったこの地に設けられました。翌14年（1925）3月1日から試験放送が行われ、22日に仮放送がはじまりました。京田武男アナウンサーによる第一声は、「アーアー、聞こえますか。JOAK、JOAK、こちらは東京放送局であります。こんにち只今より放送を開始致します」というものでした。日本の放送史上、記念すべき日といえるでしょう。愛宕山に正式な放送局が完成するまでここで仮放送が続けられました。ちなみに当時のラジオの波長は375m（周波数800kHz）、出力は220Wでした。受信機の性能に比べて出力が弱かったため、東京市内でないとよく聞こえなかったそうです。



## 旧協働会館 (伝統文化交流館)

所 芝浦1-11-15

港区立伝統文化交流館は、区指定有形文化財「旧協働会館」を活用して、令和2年（2020）に伝統文化の継承や地域活動、交流等のための施設として開館しました。

旧協働会館は昭和11年（1936）に芝浦花柳界の見番として建築された木造2階建ての建物で、大工棟梁は目黒雅叙園などの建築を手がけた酒井久五郎です。

玄関の唐破風や2階の百畳敷きの大広間など芝浦花柳界が華やかであった時代の姿を伝えています。戦時中に花街が疎開した後は平成12年（2000）まで港湾労働者の宿泊施設として利用され、協働会館と呼ばれていました。都内に残された唯一の木造建築の見番として貴重なものです。

区指

時間：10：00～21：00  
休館日：12月29日～1月3日、臨時休館日  
入館料：無料  
電話：03-3455-8451



## 近代史跡

### 歯科医学教育発祥の地跡

所 三田4-18

コース④

ここは高山紀齋（1851～1933）が明治23年（1890）に高山歯科医学院（東京歯科大学の前身）を設立した場所です。岡山藩出身の高山紀齋は戊辰戦争に従軍した後、明治3年（1870）に上京して慶應義塾に入塾し、同5年（1872）にアメリカに留学して歯科医学を修めました。同11年（1878）に帰国し、銀座に歯科診療所を開きました。紀齋は日本における歯科医学の発展と後進の教育の必要性を感じ、明治23年（1890）にこの地に医学院を設立しました。また、日本歯科医学会を設立し、初代会長に就任しました。その後、医学院はちわきもりのすけ血脇守之助（1870～1947）に引き継がれました。血脇は日本の近代歯科医療制度の確立に尽力した歯科医で、野口英世のパトロンとしても知られています。その後、明治33年（1900）に神田小川町に移転しました。現在、伊皿子交差点前に記念碑が建っています。



### 東京大学医科学研究所

所 白台4-6-1

コース⑤

東京医科学研究所は明治25年（1892）、ドイツ留学から帰国した北里柴三郎のために福澤諭吉が私財を投じて設立した私立衛生会附属伝染病研究所を起源とします。同32年（1899）に内務省管轄の国立伝染病研究所となりますが、これは伝染病研究は衛生行政と表裏一体であるべきという北里の理念に合致するものでした。ところが、大正3年（1914）に政府は北里に一切の相談もなく、研究所の所管を文部省に移し、東京帝国大学の下部組織にする方針を発表します。その結果、北里は研究所を去り、新たに北里研究所（→47ページ）を創設します。現在、構内にはうちだよしかず内田祥三設計の研究棟（現医科学研究所1号館、昭和12年〈1937〉建築）が残されています。また、専門のそばに近代医科学記念館があります。

#### 近代医科学記念館

時間：10：00～12：00、13：00～16：00  
 休館日：土・日祝日、夏期休業期間、年末年始  
 その他臨時休館  
 料 金：無料  
 問い合わせ：03-5449-5470



## 北里研究所病院

所 白金5-9-1

コース⑥

「日本の細菌学の父」といわれる北里柴三郎（1853～1931）が大正3年（1914）に設立したのが北里研究所です。北里は明治8年（1875）東京医学校（現東京大学医学部）へ進学し、同18年（1885）からドイツのベルリン大学へ留学し、コッホに師事します。同22年（1889）に世界で初めて破傷風菌だけを取りだす純粋培養法に成功、翌23年（1890）には血清療法を開発します。同25年（1892）に帰国しますが、受け入れる機関がなく福澤諭吉が設立した私立衛生会附属伝染病研究所に入ります（→46ページ）。その後、大正3年（1914）に政府との軋轢から研究所を去り、私費を投じて11月5日に北里研究所を設立しました。以降、日本の細菌学・感染症学の発展に大きな役割を果たしています。構内に北里柴三郎記念室があり、北里の生涯やその功績を、貴重な資料や写真とともに紹介しています。

北里柴三郎記念博物館 展示室  
時 間：10：00～17：00（入館は16：30まで）  
休 館 日：土曜日（第2・4・5）  
日曜日（第1・3・5）  
祝日、年末年始、夏期休暇ほか  
料 金：無料  
問い合わせ：03-5791-6103



## 最初の麻布区役所跡 (龍澤寺)

所 元麻布3-10-5

明治11年（1878）7月22日の郡区町村<sup>ぐんくちやうそん</sup>編成法<sup>へんせいほう</sup>により、現在の港区域には赤坂区、麻布区、芝区が設けられました。麻布区の範囲は主に現在の麻布・六本木にあたります。ここ龍澤寺には明治6年（1873）12月に第二大区十二小区の区務所が置かれていましたが、これを麻布区の区役所として明治11年（1878）11月4日に開庁することになりました。初代区長には前田<sup>まえだ</sup>利充<sup>としみつ</sup>が任命されました。開庁当時の戸数は7,813戸、人口は26,000人余でした。昭和22年（1947）3月15日、赤坂区・麻布区・芝区が統合し、現在の港区が誕生しました。



## 近代史跡

### 日本経緯度原点

所 麻布台2-18-1

コース7

日本経緯度原点は日本の経度と緯度を決める基準となるものです。昭和24年（1949）の測量法施行令により東経139度44分40秒5020、北緯35度39分17秒5148に定められましたが、平成13年（2001）の測量法の改正により最新の宇宙測地技術をもって新たに東経139度44分28秒8759、北緯35度39分29秒1572に改められました。さらに平成23年（2011）3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震により、大きな地殻変動が発生したため、再測量を行い、東経が139度44分28秒8869に改められました。この場所には明治7年（1874）から海軍の気象台が置かれていましたが、同21年（1888）に内務省地理局天象台・東京帝国大学理科大学天象台と合併し、東京帝国大学付属の東京天文台が発足しました。しかし、関東大震災後、市街地化が進んだため観測に適さなくなり、天文台は三鷹市に移転しました。

区図



### 東京放送局跡 (NHK放送博物館)

所 愛宕2-1-1

コース8

大正14年（1925）7月12日、関東大震災で倒壊・焼失した愛宕塔と愛宕館の跡地に東京放送局（JOAK）の局舎が落成し、ラジオの本放送がはじまりました。場所は上野などほかにも候補がありましたが、広く電波を送信できる高台であることなどから愛宕山に決定しました。設計は東京タワーと同じ内藤多仲ないとうたぢゅうが手がけ、鉄塔の高さは45m、塔の間は32.7m、出力1kw、周波数800kcでした。開局後はさまざまな放送が流され、昭和11年（1936）の二・二六事件で青年将校らに投降を呼びかける放送もここから流されました。昭和14年（1939）5月13日、千代田区内幸町に東京放送会館が完成し、愛宕山の東京放送局はその役割を終えます。昭和31年（1956）3月から世界初の放送博物館として開館しました。

平成28年（2016）1月にリニューアルオープンし、8Kシアターを体験することができます。



## 看護婦教育発祥の地 (東京慈恵会医科大学)

所 西新橋3-25-8

日本の看護教育は東京慈恵会医科大学を創設した高木兼寛が、留学中に視察したナイチンゲール看護養成所に感銘を受け、これを模範とした看護婦教育所を有志共立東京病院（現在の東京慈恵会医科大学附属病院の前身）に置いたことにはじまります。明治17年（1884）10月17日にアメリカから看護婦M・E・リード女史を招聘して看護婦取締りに任じ、金曜日と土曜日に看護教育をはじめました。同19年（1886）には前年の秋に初めて生徒見習いとして採用した13名のうち5名を一回生として採用しました。授業は解剖・生理・看護法の講義、解剖・包帯・はつば巴布（＝湿布）製法の実習があり、教育課程は2年間でした。医療の最前線で活躍する看護師の育成が現在も行われています。記念碑は高木2号館の入口脇に建っています。

区画



## 日本近代初等教育発祥の地跡

所 芝公園1-1

日本の初等教育は明治5年（1872）8月3日の学制の発布にはじまりますが、これに先立ち同3年（1870）、文部省の管轄のもと、東京府に6つの小学校が開かれました。その第一校が増上寺の子院源流院げんりゅういんに置かれ、同年6月12日に開校しました。大だい訓導くんだう（校長）には村上珍休むらかみちんきゅうがつき、男子は8歳から15歳まで、女子は8歳から12歳までの生徒約30人を教えました。授業科目は書算筆三科（朗読・習字・算術）で、毎日5時間、授業料は月に2分、机・硯・弁当持参で行われました。明治5年（1872）の学制の発布により「第一大学区第二中学区第一番小学」として東京府の管轄となり、校地も西久保町に移りました。その後、鞆絵小学校となり、平成3年（1991）に桜小学校・桜田小学校と統合し、御成門小学校が開校しました。

区画



## 近代史跡

### 最初の芝区役所跡 (安養院)

所 芝公園2-3-2

明治11年(1878)から大正15年(1926)までこの地に芝区役所がありました。明治11年(1878)7月22日、地方三法の1つとして郡区町村編成法ぐんくちょうそんへんせいほうが発布され、東京には15の区と6つの郡が置かれることになりました。現在の港区域には赤坂区、麻布区、芝区が設けられ、11月2日に発足しました。芝区の範囲は桜田・三田・白金・高輪の地域で、戸数は14,757戸、人口は58,861人でした。区役所はここ安養院に設けられ、11月4日に開庁しました。初代区長には相原安次郎あいはらやすじろうが任命されました。その後、芝区役所は愛宕町に移り、大正15年(1926)に現在の港区役所の場所に移りました。赤坂・麻布・芝の3区は昭和22年(1947)3月15日に統合され現在の港区へ引き継がれました。



### 慶應義塾・攻玉社跡

所 浜松町1-13-1

安政5年(1858)、築地鉄砲洲(現中央区明石町)の中津藩邸に蘭学塾を開いた福澤諭吉は慶応4年(1868)にここ芝新銭座に移りました。この時、年号をとって塾名を「慶應義塾」と名付けました。その後、明治4年(1871)に三田の島原藩邸(現在地)に移転しました。福澤はこの跡地を攻玉社こうぎょくしゃを経営していた近藤真琴こんどうまことに請われて300円で譲ったといわれています。攻玉社は文久3年(1863)に近藤が鳥羽藩邸に開いた蘭学塾を起源とします。主に海軍将校を養成する異色の学校で、出身者で海軍大將になった者は鈴木貫太郎すずきかんたろう(後に第42代内閣総理大臣)など15名、また旅順攻撃りょじゆんの広瀬武夫ひろせたけお中佐も同校の出身です。大正14年(1925)に西五反田へ移転しました。現在エコプラザ前に記念碑が建っていますが、実際の塾跡は道を挟んだ東側の一帯(浜松町1-6)です。 都指



## 旧新橋停車場跡

所 東新橋 1 - 5

コース 9

日本で初めての営業鉄道は明治5年(1872)に開通した新橋-横浜間28.8km(所要時間53分)です。明治2年(1869)に東京-横浜間の敷設が決定され、翌3年(1870)にイギリスから鉄道技師エドモンド・モレルらを招き、その指導のもとで建設がはじまりました。試運転を経て、明治5年(1872)9月12日に全線開通し、祝賀会が新橋鉄道館で明治天皇臨席のもとで行われました。当初の運賃は、大人上等が1円12銭5厘、中等が75銭、下等が37銭5厘とかなり高額でした(当時は米1升がおよそ4銭でした)。開業翌年の営業状況は乗客が1日平均4,347人とかなりの黒字となり、これにより鉄道が普及していくことになります。その後、大正3年(1914)新橋駅は貨物専用の汐留駅となり、昭和61年(1986)11月1日、国鉄民営化を前提としたダイヤ改正により廃止されました。



平成3年(1991)からここで発掘調査が行われ、創業当時の駅舎跡やホームなどが発見され、平成8年(1996)に国史跡に指定されました。発掘調査の後、現状を保存するため埋め戻され、現在はその上に開業当時の駅舎外観が復元されています。旧新橋停車場鉄道歴史展示室もあります。[国插]

旧新橋停車場 鉄道歴史展示室  
開館時間：10:00~17:00(入館は16:45まで)  
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始(12/29-1/3)  
展示替え期間中、設備点検時  
料 金：無料  
問い合わせ：03-3572-1872



五雲亭貞秀 新橋鉄道館 汐留駅ヨリ入口之図



## 近代史跡

### 新聞創刊の地跡

所 虎ノ門1-2

明治7年(1874)11月2日、子安峻・  
 もとのもりみち しばたまさきち  
 本野盛亨・柴田昌吉が日本で初めての本格  
 的大衆啓発紙『讀賣新聞』を創刊しまし  
 た。発行元の日就社が置かれたのが虎ノ門  
 の外、琴平町1番地の旧武家長屋です。江  
 戸時代の情報紙であった「かわらばん瓦版読み売り」  
 から名前をとって題号とし、漢字にふりが  
 なを振った平易な小新聞として出発しまし  
 ました。創刊のころ漢字教育を受けていなかっ  
 た市民から、町名番地にちなんで「千里を  
 走る虎の門、こととひらがなは一番なり  
 (琴平一番)」と歓迎されました。大正6  
 年(1917)12月1日に社号を讀賣新聞社  
 に改め、今に続いています。明治初期から  
 今日まで題号を変えず(ただし一時期『讀  
 賣報知』を使用)、東京で創刊したものが  
 全国紙にまで発展した新聞は他にありませ  
 ん。現在、創刊の記念碑が虎ノ門交差点三  
 井ビル脇に建っています。



### 最初の赤坂区役所跡 (高橋是清翁記念公園)

所 赤坂7-3-39

明治11年(1878)7月22日の郡区町村  
へんせいほう  
 編成法により、現在の港区域には赤坂区、  
 麻布区、芝区が設けられました。赤坂区  
 の範囲は主に現在の赤坂・青山にあたります。  
 最初の区役所は赤坂表町3-5(現赤  
 坂7-2草月会館)に置かれ、11月4日  
 に開庁しました。初代区長にはしまづただあきら  
 島津忠亮が任命されました。その後、区役所は赤坂表  
 町1丁目などに移り、明治24年(1891)  
 に現在の港区役所赤坂地区総合支所の場所  
 に移りました。赤坂区は昭和22年(1947)  
 3月15日に麻布区・芝区と統合され現在の  
 港区が誕生しました。

